

ポスター | 2-03 外科治療遠隔成績

ポスター

フォンタン循環その他

座長:中島 弘道 (千葉県こども病院)

Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:20 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-081~III-P-085

所属正式名称: 中島弘道(千葉県こども病院 循環器科)

[III-P-085]フォンタン型手術後遠隔期に向けての心臓カテーテル検査指標の推移

○金 成海¹, 鬼頭 真知子¹, 石垣 瑞彦¹, 濱本 奈央², 佐藤 慶介¹, 芳本 潤¹, 満下 紀恵¹, 新居 正基¹, 田中 靖彦¹, 坂本 喜三郎³, 小野 安生¹ (1.静岡県立こども病院 循環器科, 2.循環器集中治療科, 3.心臓血管外科)

Keywords: フォンタン型手術, 心臓カテーテル検査, 遠隔期

【背景】フォンタン型手術後若年期・成人期へのフォローアップ項目は多岐にわたる。その中でも当科では、一般状態良好で再介入不要なF術後症例に対し、術後約1年、その後約3～5年毎に心臓カテーテル検査で評価する方針としている。【目的】成長に伴うフォンタン術後の経過の一側面として、心カテ循環動態指標の経時的変化を明らかにすること。【対象・方法】開院以来1988～2004年末までに施行されたフォンタン術後144例中、死亡・フォロー脱落・再介入いずれもなく10年以上経過し、前述の定期的心臓カテーテル検査を施行した45例を対象とし、長期にわたり再現性の高い指標である中心静脈圧 (CVP)、肺動脈楔入圧 (PAWP) の推移を検討した。フォンタン型手術施行年齢は中央値2.3 (0.4-16.5)歳。心室形態は右室型単心室結合19例、左室型単心室結合15例、分割不能な両心室成分11例。術式は全例 total cavopulmonary connection (TCPC)で、心外導管31例、心内導管 2例、ラテラルトンネル 8例、肺動脈下大静脈直接吻合 4例であった。【結果】術後早期 (約1年) → 中期 (3-6年) → 遠隔期 (8-11年) の3期において、CVPは $12.2 \pm 1.9 \rightarrow 11.0 \pm 1.8 \rightarrow 9.4 \pm 1.7$ (mmHg) (各 $P < 0.001$)と有意に低下し、PAWPは $6.6 \pm 2.2 \rightarrow 6.5 \pm 2.0 \rightarrow 5.6 \pm 2.1$ (mmHg) (各 NS, $P < 0.05$)と遠隔期低下を認めた。早期から遠隔期のCVP低下については心室形態による差はなく、導管群に比してラテラルトンネル群の低下傾向は有意性を欠いた ($12.5 \rightarrow 9.5$ mmHg, $P = 0.053$)。【考察】特別なイベントなく保たれたフォンタン型手術後では10年後の遠隔期に向けてCVP、PAWPが低下していく。今後さらなる多方面からの評価を加味し、循環動態を保持・向上させる取り組みが望まれる。